中臣鎌足（藤原鎌足）

＊松原家文書398「藤原鎌足公像」

解　説

中臣鎌足（なかとみのかまたり：614～669）は，古代の中央貴族・政治家です。645年に中大兄皇子（なかのおおえのおうじ：後の天智天皇）らと共に蘇我氏を倒して大化の改新を推進し，内臣（うちつおみ）に任じられて律令体制の基礎を築きました。臨終に際し，天智天皇から大織冠（たいしょくかん）という当時の朝廷で最高の冠位と藤原の姓を賜りました。鎌足の子孫がのちに摂関政治を行った藤原氏です。

この中臣鎌足の墓と考えられているのが大阪府高槻市にある阿武山古墳です。1934（昭和9）年に古墳と棺に埋葬されていたミイラが偶然発見された際には，科学的な調査は行われず埋め戻されました。しかし，その時にひそかに撮影されたX 線写真やサンプル的に採取された遺物を手掛かりに，約50年後に調査がなされた結果，金糸をまとったミイラは鎌足である可能性が高いとされました。

X線写真を分析すると，この人物は，骨ががっしりしていてスポーツマンのような体をしており，いわゆるスポーツ肘もありました。ここからは，馬を馳せ，弓の練習をおこたらない体格のよい人物といった姿が浮かび上がってきます。また死因は，落馬か高い所から落下するなどの事故によって，脊椎・腰椎を損傷し，下半身不随のまま肺炎・尿路感染症などの二次合併症を起こしたと推定されています。

写真は，旧萩藩士の中嶋松堂が描いた鎌足の肖像です。両手で笏を執り，半跏踏み下げの姿勢で腰かけるという，鎌足像でよくみうけられる姿勢です。

＊当館には，鎌足を祖先とする系図として，内藤家文書（神奈川県）39，高洲家文書191などがあります。

山口県文書館所蔵アーカイブズガイド学校教育編
目次に戻る